

No.150

公民館だより

平成26年3月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

在職十年を振り返る(一)

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

私が由良地区公民館主事の職務を始めたのは、平成十三(二〇〇二)年四月一日。

宮本自治会長職務の為、平成十七年三月三十一日で退職。

平成二十年五月一日から公民館長として勤務、現在まで通して十年の公民館勤務になります。

この十年間を振り返ってみて、この十年間を振り返ってみて、

当初全く別世界の職務であり戸惑いしましたが公民館の事業等を把握するため、過去の資料をすべてフロッピーディスク(当時は主流)に記録し理解することから始まりました。

○平成十三年四月には、第十一代

公民館長として飯澤登志朗氏が就任。五月にはシニアソフトボールチームが誕生。六月には宮津市地区対抗駅伝競争大会が行われ、日ヶ谷小学校をスタートする北部コースで由良チームが優勝の栄冠を勝ち取っています。

九月には「NHK健康フェア」が宮津会館で実施、地区から「由良練り込み太鼓」が出演し壮大な太鼓の演技に大喝采を得ています。

この年は、明治以来続いてきた農協、JA由良支店の廃止、宮津では介護老人保養施設「なきさ苑」がオープン、天橋立では松喰虫の被害で松百三本も伐採されています。

ます。

またこの年から各地区選考委員による自治連合会長選考が行われ大森秀朗氏が就任されています。

平成十三年は、猛暑でありましたが九月になると、秋風が吹くようになったと記憶しています。由良小学校が、平成十三年度京都府教育委員会「さわやか賞」教育長賞を受賞しています。

○平成十四(二〇〇三)年三月、由良ヶ嶽登山道に合目・標高の案内板を設置しました。選任第二代会長 北野 誠治氏が就任。

公民館では「公民館活動において優れた成果を収め社会教育の振興に多大の貢献をした」ことが認められ、宮津・与謝地方初の全国優良公民館表彰を受けることになり、飯澤館長と共に十月東京での受賞式に出席、皇居内で天皇皇后両陛下にご拝謁(館長)、武蔵野の面影を残す庭園、手つかず樹木、壮大な江戸城の堀や石垣などを散策、今でも強い印象が残っ

ています。

この年には由良の歴史をさぐる会が「由良散策のしおり」を発行、地区外に由良案内の重要な資料となっています。

○平成十五(二〇〇四)年 飛鳥時代(五九三) 蜂子皇子が由良湊から船出し山形庄内由良に漂着、出羽三山を開祖されました。

庄内と丹後、同じ『由良』の地名のつながりで、平成四(一九九二)年から二年おきに交互に訪問する「友好の浜」宣言ができ、庄内から訪問団が来訪されています。

脇公園に「由良の戸歌碑」が建立され、「由良の歴史をさぐる会」創設三十周年記念事業が行われ、「えいへいや踊り保存会」が発足したのもこの年です。

(以下次号)



行事報告

主事 磯田 充亮

◎十月二十日(日)

グラウンドゴルフ大会(団体戦)

今回は六団体の参加申し込みがありましたが、昨年に続き今年も雨天のため中止となりました。来年度も、個人戦、団体戦を開催する予定です。皆様の参加をお願いします。

◎十一月三日(日) 文化の日

今年共催していた由良婦人会が解散し、うどん販売等の催しを懸念しましたが、地域のボランティアに活躍されている女性達が、「結・友・遊」クラブを結成し、うどん等の販売を、地区の青壮年会の有志によるバザー、又、「安寿足湯」の人達によるコーヒーショップをそれぞれ開店していただき、盛大に文化祭を開催することができました。

展示品は、小中学生の作品が減少する中、特に小学生が画用紙一面に表情豊かな人の顔を描

いた絵が感動を与えていました。又、持ち帰り可とした、小学校の文集「はまの子」の前には人々が集まり、自分が描いた作文を見て懐しむ人や「お父さんのだ」「孫のや」等言つて、記念にと、持ち帰った人が多くいました。今回は和歌を題材にした書道が展示され、生花同様に愛好家が足を止め観賞されていました。

展示品の主な内容は、
絵画 58点 書道 24点
写真 36点 生花 15点
その他、工作、レザークラフト等と旧由良小学校から譲り受けた文集「はまの子」約百二十点、写真約三百点を展示(必要な人に配布) 展示数は五百六拾八点、展示者は七十八名と一団体でした。来場者は、約四百名でした。

◎十二月十一日(土)

子供のびのび体験活動

「子供料理教室」

(クリスマスケーキ作り)

今回も宮津市食生活改善推進委員協議会(食改)の皆様の指導を受け、由良子供会連絡協議会共催で開催しました。

今年、由良小学校閉校後初めての開催で第九回目を迎え、小学生と園児二十七名が参加しました。

五、六年生が班分けをして、間に他の生徒は机を並らべる等の会場設定をしました。

五、六年生が班長となり五班に分かれクリスマスケーキ作りに挑戦しました。

ケーキは昨年同様三段のスパインジケーキを使い、イチゴ、パインナップル等をデコレーションするもので、作業を分担し慣れた手付きで素早く綺麗にできあがりしました。各班出来あがった後試食し、食後はゲーム等をして親交を深めていました。

今年も昼食後、感想文を書いてもらいました。後頁に掲載し

ます。

◎一月十一日(土)

新春、公民館囲碁大会

今回も由良囲碁同好会の協力を得て開催しました。

参加者は十一名で、A組(有段者)五名、B組(二級以下)六名に分かれ、各組リーグ戦を行ない、各組の優勝者が対戦し総合優勝を決めました。

結果は次のとおり(敬称略)

優勝	A組	B組
準優勝	中西 衛	木村卓雄
三位	竹村寛三	磯田充亮
	今西秀夫	三嶋安夫

総合優勝 木村卓雄

◎一月十八日(土)

卓球場の開設(教室)

今年も生涯スポーツの普及と健康づくりの推進の一環として三月末まで由良の里センターで開設しています。皆様ご利用して下さい。(詳細は公民館がいつでもお知らせ済み)

歓喜の瞬間

栗田小学校 教頭 青木 広典

「トウキョウ」と白いボードに書かれた「TOKYO」の文字を見せながら淡々と発したIOC会長の言葉にその会場に同席した「東京オリンピック・パラリンピック招致団」のメンバーは歓声をあげ、一斉に椅子から飛び上がりました。それをテレビ中継で見ている多くの人々が各地で歓声をあげ、喜んでいるニュースも流れました。私はその夜中、テレビで決選投票になったところまでは記憶にありませんが、また寝てしまい、次に六時に目覚めたら「東京」に決まっています。歓喜の瞬間に立ち会えず、ちよつと残念な気持ちでした。

前回の東京オリンピックが開かれた時、私はまだ二歳の頃で全く記憶がありません。父親がその開会式と陸上の試合を見に行っ

た記念に五輪マークのワッペンを買って帰り、姉のジャンパーに貼り付けてあったのを何年か後に見て「そういう大会が日本であつたんだ」と感じた程度の記憶です。

しっかりと記憶にあるのは冬季オリンピック札幌大会です。ジャンプで日の丸飛行隊がメダルを独占し、外で作業をしていた父親に報告しようと庭に飛び出したことを覚えています。夏季オリンピックでは当時の西ドイツで行われたミュンヘン大会以降の記憶が鮮明です。日本男子バレーボールチームが準決勝で危ない試合をしながらも金メダルを取ったことをよく覚えていますが、でもオリンピックなのに血なまぐさい事件が同時に報道されていて子どももの私にとっては？

マークがたくさん頭上に浮かぶ大会でもありました。

それ以後オリンピックに関心を持つようになり、テレビでよく観戦します。四年に一度しかない機会に、国の代表に選ばれるために計り知れない努力を積み重ね、世界の並み居る強豪とメダルをかけて競い合う選手たちのみならず闘志や緊張感、興奮が観戦する私たちにもテレビを通して伝わってきます。見ている私たちにとつても手に汗を握りながら選手を応援し、一喜一憂するという四年に一度のビッグイベントでもあります。

また、普段はあまりテレビ中継されない競技についても関心を持ったり、障害者スポーツの奥深さに驚かされたりと何かと理解の深まる機会でもあります。そして大小さまざまな国々の選手の様子を通して世界の人々についても興味を持ち、「その国はどんな国だったかな」と世界地図や資

料集を広げてしまいます。

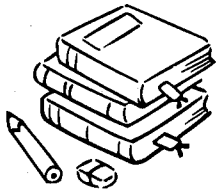
一方でオリンピックの記憶はその時代時代が反映され、「ロサンゼルスオリンピックのときは大学生であんなことしてたなあ」とか「長野オリンピックは子どもとテレビを見ながら応援したなあ」とか思い出します。「歌は世につれ、世は歌につれ」ではありませんが、オリンピックは私の中で夏季、冬季と二年ごとに記憶の節目になっています。

さて今回招致成功の歓喜の様子は子どもたちの記憶にも深く残るはずですが、また七年後の開催に向け様々な取組が進み、日本中が盛り上がっていく様子も成長期の子どもたちにとつて少なからずよい影響を及ぼすと考えます。ますますスポーツに関心を持つことで体を動かし、強い体を作るきっかけにもなり、スポーツのフェア精神を目の当たりにし、学ぶことも多いと思います。

由良小学校は閉校になりました

だが、「はまの子グラウンド」と「はまの子体育館」は立派に残っています。その管理は由良地区公民館様に移りましたが、これからも由良のシンボルの一つとして、また元気の発信地として子どもから大人までたくさんの方々に利用していただきたいです。そしてもしかすると日本を代表するようなアスリートが誕生する聖地になるかもしれません。

今、冬季オリンピック・ソチ大会が開催され、日本や世界で盛り上がりつつあることでしょう。そして七年後、「日本、過去最高のメダルラッシュ」なんて連日のように歓喜の報道が行われるのを楽しみに、これから活躍される選手たちを温かく応援したいなあと思っています。



子供料理教室 クリスマスケーキ作りに参加して

(感想文を転記)

楽しかったケーキ作り

六年 上羽 省吾

今日は、ケーキ作りでした。

始めに、チームにわかれてケーキを作りました。ぼくたちのチームのケーキは、クリームをたくさん使っておいしいケーキが作れました。ぼくは、一番大きなケーキを食べておいしかったです。

次にひるごはんでカレーとサラダを食べました。おいしかったです。

ぼくは、これでケーキ作りには、いけないけど、今年最後のケーキ作りにいけてよかったです。

最後の楽しかった子供料理教室

六年 小林 優暉

十二月十四日土ようびに子供

料理教室があり、ケーキ作りがありました。

メンバーは僕、一成君、なつみちゃん、ゆうとくん、ちはるちゃんのメンバーでした。

みんなで協力して、みんながいろんなやくめができるようにしました。

やっぱり僕たちがつくったケーキは、とてもおいしかったです。

その後休けいをしました。そして昼ごはんをたべました。おなかいっぱい、みんなたべていたのでよかったです。

最後だったけど、楽しい子供料理教室になり、よかったです。

楽しかった子供料理教室

五年 大森 愛菜

今日、里センターで朝九時から、子供料理教室があり、クリスマスケーキを作りました。クリームをぬったりするのがおもしろいようにできなくて大変でした。

切り分ける時も、果物がおちたり、きれいに切れなくてどうしようと思ったりもしたけど、みんなががんばってかざりつけたりしたので、とてもおいしかったです。おぼちゃんたちが作ってくれた、お昼ごはんもおいしくて、家でも作れたらいいなと思いました。今日は、みんなでおいしいケーキも作れました、楽しく遊べたので良い半日だったなあと思います。

楽しかったクリスマスケーキ作り

五年 岡本 祥希

十二月十四日にクリスマスケーキ作りをしました。始めに、

ゲームをしました。その後、チームを作りました。その後、ケーキ作りをしました。全部かんせいした時は、みんなのところは、すごかったけど、ぼくたちのところは、いまいちだったけど、まあよかったです。そしてケーキはおいしかったです。そしてその後には、カレーも食べれたのでよかったです。ぼくは、らい年もあるから、らい年は、もっといいケーキを作りたいです。

子供料理教室が楽しかった

五年 瀬戸野 拓真

クリスマスケーキを作って食べてとってもきれいにでき、おいしかったです。それと仲が深まったのでよかったです。それと来年が最後なのでケーキをきれいに美しく作りたいです。クリスマス

ケーキつくって

仲ふかく

楽しかったケーキ作り

五年 野津 優奈

今日は、ケーキ作りがありました。ケーキは、もりつけも上手くてできまし、味がなによりもあまくておいしかったです。

今年、フルーツの量(のせた数)が、少なかったけど、生クリームをたくさんせたので、よかったです。カレーとサラダもおいしかったです。三班のみんなもちゃんとやってくれたし、仲良くつくれたので、たのしくできました。来年も、ケーキ作りをしたいです。

楽しくできたケーキ作り

五年 升田 実梨

私は、とてもケーキ作りをたのしみにしていました。私は、五年生なので、チームを始めにきめました。そして、作りはじめました。

はじめは、半分にクリームを

ぬって、フルーツをのせました。とてもきれいにできました。上

のかざりもつけました。とても上手にできまし、特に五班が上手でした。

ケーキを食べると、あまかつたし、フルーツもおいしかったです。

カレーライスもたべました。けっこうおいしくてよかったです。

私は五年生なので、来年でおわりだから、来年もあつたらいいなと思うし、またいきたいです。

楽しい・笑顔だった

子供料理のクリスマスケーキ作り

四年 室澤 依亜

十二月十四日土曜日に、由良の里センターで子供料理教室がありました。班を決めた後、いよいよ作りはじめました。

わたしは、作る時に上手にかけたらいなとおもっていまし

たがあまりうまくいけませんでした。だけど、今まで作ってきたなかではみんなが笑顔だったのでうまくいかなかつても笑顔があればいいとおもいました。完成した後はみんなまで食べました。笑顔があつたのでおいしかったです。一時間ぐらい遊んだら昼ごはんのカレーとサラダを食べました。とても、おいしかったです。

また来年もしたいです。今日は本当に楽しかつたし、ありがとうございました。



山椒大夫外伝(Ⅲ)

— 千年超の伝承 —

水上勉と「説経節を読む」

京都丹後学会会長
丹後ふるさと観光大使

坂本与一郎

平成十六年九月八日、水上勉さん(八十五歳)が亡くなった、隣の福井県若狭の出身だったこの作家は丹後を愛し、何回も入ってくれた。

丹後を舞台にした作品には、「飢餓海峡」「五番町夕霧楼」などがある。一九七五年に講談社から「丹後路」を刊行した。そのあとがきの一文。

「『丹後路』はつまり、このような私の思い出も書いてあるが、日弁貞夫さんの写真があまりにも面白かったので、説経節の『山椒大夫』に深入りしてしまった。安寿姫や厨子王の悲劇な日々を送ったであろう由良岳の麓の台地を中心に、由良川沿いを歩いたことをおぼえているけれど、

丹後路の淋しさは、安寿の汐を汲んだ岩場を洗う海の波がなく

てはならない。いまもうらにしの吹いているだろう紫紺色の海が思い出される。由良千軒といわれた大夫屋敷のあった頃の港の跡を歩くと、寂寥のどん底に落ちてしまうのである。

丹後路は山椒大夫がいて、私にははなやぐように思われる。」

「ただいま語り申す御物語、国を申さば、丹後の国、金焼(かなや)き地蔵の御本地を、あらあら説きたてひろめ申すに、これも一度(ひとたび)は人間にておわします。人間にての御本地を尋ね申すに、国を申さば、奥州、日の本の将軍、岩城の判官、正氏殿にて、諸事のあわれ

をとどめたり、この正氏殿と申すは、情(じょう)の強(こわ)いによつて筑紫安楽寺へ流され給い、憂き思いを召されておわします。」

冒頭から説経節の特徴である丹後の金焼き地蔵尊の霊力を読みあげるのである。私など、若狭の村で、門(かど)に立った二人(三人のごぜ(目の不自由な旅芸人)がそろつてこれに似た文句をお経のように節をつけて語るのをきいた記憶があるが、のち、物書きになつてから、越後高田で最後のごぜさんといわれていた杉本チイさんの家で聞いた「さんせう太夫」の冒頭部もこれであった。門に立ったり、辻に立ったりして説経節をかたる人の声や節まわしがごぜにも受けつがれていて、この台本の文章が心に沁みただと思う。たとえば、冒頭一行目の、「国を申さば、丹後の国」ときいただけで、私たち若狭にうまれた者は、赤ん坊の頃の子守歌に、「か

かはわらへななつみに、ととはたんごへ金堀りに、三年たつてももどりやせぬ」とうたった丹後の国が遠い山の向こうにあり、そこには酷い暮らしを課せられる金堀り人夫小屋があるそう。いったん小屋に入った者は三年経たぬと帰つてこれない、というのだったが、その丹後の、金焼き地蔵尊のご利益にあずかりたいと思ひも手つたうので、じいーつと聞き入つたものである。そのことは、森鷗外の『山椒大夫』からはつたわつてこず、門説経(かどせつきょう)の語りには、誘いこむような力があったと思う。語りと文芸の違いであろうが。文芸にリズムはないとはいえないが、端折りも巧妙であるから、くり返しの多い説経節の方には本話が生(な)まに詰まつていて、しつこさはあるけれど、それが、門できくので、かえつてよかつたように思う。よかつたというのは、ひき込まれたことをいう

のである。節まわしよく人買いの話をきくのだからこの物語はかなしかったのである。』(水上勉著「説経節を読む」新潮社刊より)

「森鷗外の小説『山椒大夫(さんしょうだゆう)』は教科書にも載せられていて、鷗外の代表作といつてよからう。この『山椒大夫』は中世の説経節(せつきょうぶし)の『さんせう太夫』を元にしたものであり、その節はほぼ説経節に従っているが、その内容は大分違う。説経節には残酷な場面と神仏の恩寵(おんちよう)の場面が多いが、小説ではそういう場面が殆んどカットされている。

例えば、説経節では安寿(あんじゅ)と厨子王(ずしおう)が逃亡の話をするのを聞いた息子の三郎が、二人の額に焼印を捺(お)すが、小説では二人がともにそういう焼印を捺された夢を見たに過ぎない。また、説経節では厨子王を逃がした安寿

は拷問にあつて命を落とすが、小説では安寿は自殺するだけである。』(梅原猛著「京都発見4」新潮社刊より)

「死者との交流こそ、日本の芸能のルーツなのではないか。観客の涙を見て私は思う。中世の民衆がつくりあげた説経節の物語は、日本のギリシャ悲劇ともいえるだろう。日本人の感情のエッセンスを豊かに内包し、西欧のものよりも諦念(ていねん)や無感情を帯びているだけに、より清浄な救済感をたたえている。

説経節は室町期、時宗につらなる半俗半僧の漂白者たちによつて寺の門前や河原、市のみつ場などで語り伝えられたといわれる。開祖の一遍上人は、やはり漂白の一生を遂げた人物だ。(劇団遊行舎主宰白石征氏稿「説経節死者との交流」日本経済新聞平成十三年十月二十三日付より)

「また、説経節では丹後の国

司になった厨子王はさんせう太夫を首だけ地から出して生き埋めにし、その首を厨子王姉弟に取り分けつれなく当つた三郎に竹鋸(たけのこぎり)で挽(ひ)かせる。この父の首を挽くことを命じられた三郎の科白(せりふ)が奮っている。「なあおじさん、今こそ一生の間した念仏を役立てる時だ。この三郎がおやじを背負つて三途(さんず)の川を渡つてやろう」。三郎が百六回鋸を挽いたら首はころりと前に落ちた。ところが、小説ではさんせう太夫は命を助けられたばかりか、奴婢(ぬひ)を解放し善行を施し、その一族はいよいよ富み栄えたことになっている。(中略)

私は小説『山椒大夫』より、説経節の『さんせう太夫』に生き生きた文学を感じる。特にあの父の首を竹鋸で斬る三郎の科白は素晴らしい。どこか滑稽であるが、大変哀(かな)しい科白である。』(梅原猛著「京都発見4」新潮社刊より)

「国司になった王は『いかに太夫、大國が欲しきか、小國が欲しきか』とさんしょう太夫を問い詰め、『大國』と答えると『望み通り広い國をしろしようぞ。黄泉(よみ)の國だ』とさんしょう太夫の首をのこぎり引きにしてしまふ。』(前進座の全國巡演、「さんしょう太夫」の公演が七百九十回(一九九三年)を超えている。

説経節を土台にしたふじたあさやの作品である。(朝日新聞より)。
また『しのだづま』『さんせう太夫』『をぐり』など説経節の世界に共通していることは、家族の崩壊です。しかも、人間の手によつて生み出された暴力・差別・制度などによつて、家族が引き裂かれています。しかし、最後はハッピーエンド。中世の庶民の人々が描いていた夢や希望は、家族とともに暮らすということだった。だけど、

現実、それすらも難しかったのでしよう。説経節を聞いて、我がことのように感じたのだと思います。

しかし、最近、ニュースを見ておきますと、「家族がばらばらになってしまおうという悲劇は、決して過去の出来事ではない。他人事ではない」と、ひしひしと感じます。

このような時代だからこそ、説経節は人々に感動を与えるでしょう。そして、また、その根底に流れている人間性を見直そうという気運になっているのだと思います。

お芝居『山椒大夫考』では、厨子王とお母さんが再会するラストシーンがとても印象的ですが、それと並んで感動的で、皆さんが涙無くして見られないとおっしゃるのが、安寿と厨子王が浜で死のうとするシーンです。山椒大夫によって酷使され、あまりにも辛く、どうしようもなくなくなった二人は、死を選ぶ。

しかし、同じく山椒大夫のもとで働いていた伊勢の小萩(こはぎ)という女性が、『死んでは元も子もない。生きよう!』叱咤激励します。このシーンは、非常に胸が締め付けられる思いがします。そして、伊勢の小萩が登場することによって、救われた思いがします。この伊勢の小萩は強い女性ですね。

(京楽座主宰中西和久氏対談京都府立丹後郷土資料館技師伊藤太氏稿「三庄太夫伝説をめぐって」グラフ舞鶴VOL. 9より)

演劇人の取り組みが活発である。また、女優たちのごぜの一人芝居―説経節への挑戦も多い。

「ごぜは中世以降、鼓を持ち、寺社の縁起や物語を語って歩いた女の人。近世では三味線などを弾き、歌を歌って門付きなどもした。彼女らを御前(ごぜ)と呼んだところからの称である。越後ゴゼと呼ばれた芸人は、高田、長岡、糸魚川、刈羽郡な

どで、ごく最近まで活躍していた。」(岡井主税著「丹後・丹波の伝説遍歴」文芸社刊より)

「説経は女性を主体とした語り物である。大地母神崇拜↓母子神信仰↓説経の女性像という系譜は、歴史の表面に直接現われるのではなく民衆の意識に底深く蓄積され引き継がれて呪術的宗教的芸能民を某介して、説経という語り物として、集中的に噴出したといっている。」(岩崎武夫著「さんせう太夫考」平凡社刊より)

浄土教や浄土真宗の経典を講話するのが説経、美男の僧侶の説教のほうに身が尊しみでありがたいと清少納言の「枕草子」にある。

「説教正本集」(寛永十六年一六九三年刊)に「さんせう太夫」の原拠がある。一六六一年から一六七二年寛文の項が、上方から江戸へ全盛だといわれる。これは興業の座を中心とする浄瑠璃説経、それ以前は大道

芸中心の中世的な説経、鼈(ささら)を楽器としていたところから鼈説経といわれた。」

多くのことが岩崎武夫氏の「さんせう太夫考」と「続さんせう太夫考」から引用させていただいた。岩崎武夫氏も丹後のこの地へ入っていたいたとそその著書にある。

貝原益軒、長塚節、宮本常一、柳田国男、梅原猛さん、そして水上勉さんなど、この千年超、この民俗伝承のドラマ舞台の地に入っていたいた資料も多い。

このテーマは、京都丹後学の扱いとしては、紙巾の関係三作にした。伝承文化としての「山椒大夫外伝・千年超の伝承」、経済視点として「丹後隠れ里、由良千軒」、そして宗教から「丹後の古社、古寺巡礼・身代り信仰丹後如意寺」に分けてまとめることにした。

最後に梅原猛さんの感想と、地元でこの伝承を解説しつづけ

てくれる中西夏江さんの言葉を伝えたい。

『私はこの「京都遊行(ゆぎょう)」で今まで京都市内を遊行して来たが、今後はしばらく丹後を遊行することにしよう。それでその手初めに「さんせう太夫」の伝説の残る由良(ゆら)の地を訪れたのであるが、そこにはさんせう太夫の屋敷跡や、安寿が潮を汲んだ汐汲浜(しおくみはま)などとともに、さんせう太夫が生き埋めにされて首が挽かれたという「首挽松(くびひきまつ)」という一本の松が残っていた。それは由良から宮津(みやづ)に、通ずる小高い丘の中腹にあり、そこは厨子王(くしおう)が柴(しば)を刈った所でもあり、汐汲浜もすぐ下に見える。松はどういう訳か皮が剥けていた。いかにもさんせう太夫が処刑された所にふさわしい風景であった。(中略)

丹後の旅から帰って一月(ひとつき)経つが、あの「首挽松」

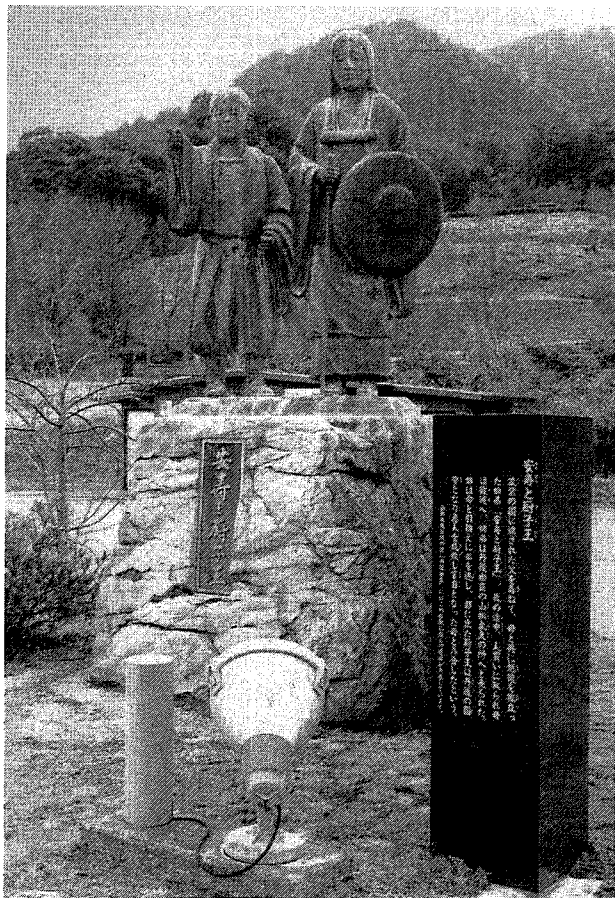
のさんせう太夫の首のイメージが私の心を離れない。(梅原猛著「京都発見4」新潮社刊より) 『長い封建時代ののち、明治維新(一八六八年)によって近代国家が発達、明治・大正期の「近代文学」は「市民の文学」となり、西欧文学の影響を受け、自然主義、理知主義を中心とした文学が発展していったのである。従来、娯楽あるいは教訓の道具のように考えられていた文学に、芸術としての独自の価値が認められ、新聞や雑誌を中心とした文学活動も多くなり、しだいに言文一致の文章が中心となって、詩や小説が口語で書かれるようになっていった。この近代文学の発展期にあつて、その文壇の指導者、批判者の地位にあつた森鷗外、夏目漱石は共に、人生や人間の問題を静かに深く追求していったのである。「山椒大夫」その他数多くの作品を残した鷗外の文章

は、簡潔で気品があり、自我の覚醒と、それに伴う近代人の孤独や苦悩を描くことにすぐれている、また歴史小説(例えば「山椒大夫」もその中の一つ)は芸術性の完成度が高いと言われて

いる。「鷗外の『山椒大夫』は伝説とちがつて理想主義すぎる」という言葉を耳にすることもあるが、あの『山椒大夫』の作品からどれだけの多くの人達(かつてその若い日に)がヒューマニ

ズムの精神を学んだことだろう。

人は、文学から「人生の真実」や「自由・独立の精神」や「人間いかに生きべきか」など、今までの現代に生きる人間として、「人間のあり方」を学ぶものである。この『山椒大夫』の作品からこのことを学ぶ青少年は多い。(中西夏江稿「由良の町史第2号」一九八一年二月、由良の歴史をさぐる会刊より)



もみじ公園の安寿・厨子王の像

短歌

坂本 妙子

うつらうつら眠りし我を誰が呼ぶ
海鳴り哀し亡夫の声する

ひそやかに山茶花咲きて晩秋の
日暮れに白くこぼれ散るなり

少し目まい覚えて伏せし寒き日に
ひよどり鋭く鳴きてすぎゆく

川柳

坂本 妙子

愛欲しい ほしいと落葉 色褪せる

持て余す 午后を聞いてる 雨の音

急がずば 迷路も楽し 知恵競べ

残高が 私の欲を 切りすてる

体力の 不足を口が カバーする

宮津番傘川柳会

大森 美智子

幻想を 抱かす枯野の ぼたん雪

雨だれの 音譜ロマンが よみ返り

喝采を 浴びて少年 伸びて行く

想い出に 酔う青春を 繰りながら

寄せる波 人は輪廻を 繰り返す



ロマンチックをおくつて

小西 衛

今日、年に一度のお部屋のお掃除をしています。そしたら、学生時代の写真が一枚出て来ました。ジーンズは、パンタロンで、メデイのコートでした。あまり綺麗には見えませんが、カッコ悪いとは思いませんでしたネ。

そしてまた、この写真を見ていたら、学生時代の恋の季節を思い出させてくれましたよ。それは、僕が楽しい、楽しい恋をしていた。彼女のお家うちにアソビに行く事になり、そこで、いや応無しに、彼女を守り続けている。パパとママに会わなければいけない事になっちゃった分けです。ギンガム・チェツクのいかしたジャケット、緑のおしゃれなネクタイ、そして薄茶色のコットン・パンツを履き、履きしちやつてサア。さらにそれに合わせるようにバック・スキー

ンの靴でサア。下宿の友人から借りた服装でサア。アイ・ビー・ルック・トラッドを決め込んだジャツテサア。心もウキウキしちゃつてサア。下宿を後にした分けですよ。

J R・高円寺こうえんじ駅から二つめのJR・阿佐ヶ谷あさかや駅まで、総武線そうぶせんにのつて、カッコマンを決め込んで、不安もいっぱいで、彼女のパパとママに会いに行きましたよ。しかしです。彼女の家の出来事は、思いのほか手ぎわ良く、しかも、ウマく事が運んでゆきました。だつて、だつて、この日の僕ときたら『体裁ていざいばかり』ツケた言葉で、パパとママに『道徳的』に喋り、答えて、取り繕つくろっていたから。だから、ママ「いい感じの人ダワネ」、パパ「ちょっと東京には、いないタイプだよなあ」と、言つて

頂いた分けです。そしてさらに「この日」は、僕の「就職試験」という名の『記念日』でもありました。されど、とうぜん二十

代の恋する季節の下真中にいる僕にとつては、彼女の恋を受け止めて、アソビに行く事は、たやすい事でありましたね。たとえ、一つの例として書きますと。僕の友人でM市に定住しているC君は、昔語りになります

が、広島SD大の「入学式」を

スッポカして、東京都・文京区『後楽園球場』(現・東京ドーム)まで、アイドル・音楽グループ

『キャンディーズ』の「三万人さ

よならコンサート」にサブタイ

トルは、普通の女の子に戻りま

す。コンサートに広島から

ワザワザ出掛けて行つたそうで

す。きつと彼は、コンサート会

場で、『力』いっぱい右手を差し

上げたのでしようね。しかしな

んですねえ、もう何んと言うの

か、バカな男なんです、されど、

されどですよ。『キャンディーズ』

に『男の純情』を燃やした。とても素敵なヤツなんです。僕「アツハハハ」「ハツハハハ」

それから、「就職試験」を受け

ずに、阿佐ヶ谷の女の子に『男の純情』を燃やした。もうひとりのバカ(僕)は、アルバイト

で一年ぐらい働いている。お菓

子の『不二家』に正社員で入れてもらう事にしたのです。ペコちゃん「ポコちゃん」と、いっ

しよにお仕事する分けですネ。

僕「アツハハハ」「ハツハハハ」

話しを若い恋の時代に戻しま

す。この阿佐ヶ谷の女の子を大

好きになった理由は、『僕がフザ

けた男』で、ずうつと通してき

たのを。『僕が冗談ばかり言つて

いる男』で、ずうつと通して来

たのを。されど、されどなんで

す。僕が『お人良し』で、『やさ

しさ』もあるという事を。天使

がいる事を。『彼女』に見透され

てしまつちやつたのです。だから、この理由で、大好きになつ

てゆきましたネ。彼女の指先を

ギユウツと握って、ドキドキしながら井ノ頭公園を、歩いたよなあ。ええと、それから駒沢通りも、下北沢通りも、そして、中野サンモール商店街も、アセを拭いながら、なぜか無口になって、歩いたよなあ。それにサア。音楽家・『ボブ・デイル』の写真集を買って来て。それをマネて。彼女は、髪をポニーテールにして、僕は僕で、黒の革ジャンパーを頭の上から、ボブ・デイル風にかぶるように着て、J・R・原宿駅前(若者通り)から渋谷・公園通り(オリンピック通り)を、彼女の肩に左腕をソエて、赤面恐怖になりながら、そして、僕達の横を歩いている。カップルをひどく意識しながら、歩いたんだっだよなあ。もう、その行動だけで、死にそうなくらい、恥ずかしかつたよなあ。しかし、デートを重ねるたびに、僕の情熱が伝わっていったと信じたよ。男(僕)の純情を燃やしましたよ。かり

に、かりにはありませんが、『男子と女子が友達ならば、それはそれで、愛するよりは、道徳的ではあると思います。』話をコロがします。

由良地区・『公民館だより』に、『大森美智子さん』(浜ノ路)と『坂本妙子さん』(宮本)が、五・七・五の十七文字の表現豊かな、写生主義的な、締りある。人間と世間の関係を追求してゆく『川柳』を投稿されておられるでしょ。そこで僕も作文の中に『川柳』を入れられないかと、試してみました。が、無理でした。そこで思いついたのが、音楽家・吉田拓郎さんの締りある。セツナ主義的な、『作詞』を入れる事でした。一曲目。拓郎が広島皆実高校二年の時に恋した。同級生・島田進子さんを思ってた。初めてのオリジナル作品♪『準ちゃん』を読んでください。僕(小西)の高校時代も、きつと、こうだったと思います。♪(僕が高校二年の夏 準ちゃん

ん 君はテニス部にいた 僕は毎日が楽しかった 君に会えるだけで 幸せだった 僕の心にもいつでも浮かぶ 夢みる瞳の準ちゃんさ) 恋は人を詩人にする。とは、下宿の友人が、良く言うてましたね。拓郎さんは、シラノ・ド・ベルジュラックとなり、ロクサーヌならぬ、島田進子さんに愛の歌を捧げたのです。

ところで、『由良の若者』は、ただただ、『若い』と、言うだけで楽しそうに見えますね。僕はいえ、『どうも年を重ねる事は、そんなに楽しい事では、ないんじゃないかと思えるようになりますね。だから、壮年期に入った僕の恋は。心がトキメク事では、ないのです。だからたとえば、『君はどうしてそんなに、穏やかに生きれるのだろう』とか、『君はどうしてそんなに、あざやかに見えるのだろう』とか、その仕草が少し気にかかったり、はたまた、『ウツ向いて、心をクモらせている。君の横顔

を見ていたら』僕・『そんなことも、あるよね』と僕・『誰にだって、あるよね』と、言うてあげたくなったりもします。心だけの、恋なのです。だから僕は、『由良の街を歩いていて、玄関先にお花が咲いていて、そのお花を見た時。やさしい人になれるのです。』はたまた、『由良の街を歩いていて、『人』と、すれ違ってゆく時。笑顔になれるし、やさしい人になれるのです。』その『二瞬』だけが、僕の壮年期の『慕情』なんです。それでは、二曲目。僕の慕情もいっしょに表現して頂きます。

『慕情』 詞・曲・歌 吉田拓郎
では、リズムをとりながら、ワン・ツー・ワン・ワン・ツー・ワン・ツウ
♪(あなたは) どうして そんなに美しく微笑むのだろう あなたとかすかに すれ違って行く時にふるえてしまう 私は今までも恋する少年のような心にな

る) 拓郎さんが六十五才の時の慕情(恋)です。幾つになっても、誰もが誰かを愛していますよネ。そんな誰かにプレゼントします。『君の道ゆく先々に幸あれ!』『幸多かれ!』

今、僕の三流作文も仕上げの緊張感で、サテンのシャツまで濡れています。熱いコーヒーを飲みながら、無口になりながら、作文『ロマンチックをおくつて』おしまいデス。ピタミンI(愛)の入った。うどんを食べながら、しかも、命ガケで北前船に乗り込んで行った。水夫の恋に思いをハセながら、See you JUN(六月に又、逢いましょう) 安寿足湯にて

※ 参考書

○『ノボさん』—小説・正岡子規×夏目漱石—

伊集院 静・講談社

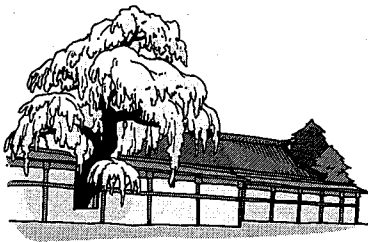
○『誰も知らなかった よしだ拓郎』

山本コウタロウ 八曜社

※ 作文相談者「みーちゃん」と「Sちゃん」

注①の説明

僕たちの時代(昭和五十年代)は、カップルが腕を組んで歩くことは、普通だったし、たやすい事でありましたネ。だけど、どうも今のカップルは、少し距離をおいて、歩くのが流行みたいですネ。そういえば、今はダンスも、チークダンスは別として、離れて踊りますネ。時代は、変わるのですネ。されど、この事だけは、言えると思います。それは、昔も今も、若いからだとか、大人だからとか、そんな事は関係なくて。『人が愛されたいと願うのは、愛したい気持ちがりないからだ、思いません。』



由良岳登山

証明書発行数

(証明書の発行は平成二十一年から)

平成二十五年	六七一枚
平成二十四年	七二六枚
平成二十三年	七四一枚
平成二十二年	八〇一枚
平成二十一年	一〇一〇枚

登山証明書の発行数は、年々少なくなっていますが、たまたま下山した人達に聞くと「もらってない」と答える人や、最近、舞鶴八雲橋近くの和江と由良岳の南側上漆原方面からの登山道が整備され、その方面からの登山者が増えているようです。

今年も四月二十九日(火)公民館では登山を計画しています。皆様の参加をお願いします。

平成25年度 宮津市人権標語入賞作品

- 笑顔たす 笑顔はきっと 花となる (中学2年生)
- 差しのべる この手をだれかが 求めてる (小学6年生)
- またあした はやくあいたい ともだちに (小学1年生)

太平洋戦争について ②

脇中西衛

十一月十二日、ふたたび戦艦

による砲撃と輸送作戦を並行して行うことにした。阿部第十一

戦隊司令官が直率する「比叡」「霧島」の両戦艦と軽巡「長良

と駆逐艦十一隻。十一隻の輸送船には第三十八師団の一部と

三万人分食料二十日分と弾薬が積み込まれた。「金剛」「榛名」

が成功したからもう一度、戦艦二隻で飛行場を叩こうという柳

の下の二匹目のドジョウを狙った作戦である。同じ日に米軍は

輸送船団を泊地に入れて、物資を補給していたので、戦艦に砲

撃されたら吹っ飛んでしまうかもしれない。そうならないため

に日本艦隊を迎撃するしかない。

待ち伏せたのは重巡二隻、軽巡三隻、駆逐艦八隻である。まだ新鋭戦艦「ワシントン」と「サ

ウスダコタ」はきていなかった。

この兵力で戦艦二隻基幹の部隊とやりあうのは命懸けである。

米艦隊はいくら待ち伏せていたといっても勇敢であった。まず

「比叡」が探照灯を照射して主砲三十六センチ砲を打つ。三式

弾であるから命中しても相手にたいしたダメージを与えられない。かえって探照灯を点けたた

めに敵艦の集中砲撃を受けたのである。直径五、六キロの狭い

海域で両軍入り乱れての舷々相摩す戦闘となった。「比叡」に

は米艦の中小径の砲弾がホースの水を注ぐように集中し、上甲

板以上前檣桟の中段以下にあるものはすべて破壊された。普通

なら重巡の二十センチ砲弾なんか跳ね返すのであるが、ところが防

御の脆弱な場所に当たってしまった。操艦も射撃も一切の機

能が失われ「比叡」は戦力を失った。この戦闘は正味三、四十分であったが「比叡」が立ち往生し、駆逐艦「夕立」と「暁」が沈んだ。米軍側は軽巡「アトランタ」が沈没、駆逐艦四隻も沈没した。サボ島沖夜戦とちがって、「比叡」の被弾さえなければ今度は日本軍の勝利である。

この混戦中に大活躍したのが「夕立」だった。吉川潔「夕立」駆逐艦長は五尺一寸(一五三センチ)そこそこの体軀だったといわれているが、全身闘志の塊のような人であった。「夕立」はガダルカナル戦では輸送や飛行場攻撃に十七回も出撃している。九月五日には吉川中佐が「夕立」「初雪」「叢雲」の駆逐艦三隻の指揮をとり、輸送した陸兵を上陸させた後、飛行場砲撃に向かい、高速輸送船二隻を撃沈している。宇垣連合艦隊参謀長は「戦藻録」でこの戦闘について、「攻撃精神旺盛なるものは、

よく勝を収む」と吉川を誉めていた。第三次ソロモン海戦で最初に敵艦隊を発見した「夕立」は、後続する駆逐艦「春雨」を従えて敵と反航態勢で至近距離に近づき、本来ならそのまま砲雷撃して避退するところを舵を切って敵艦隊の前を横切るのがある。そこで敵の隊形が崩れてしまう。混乱した敵の中に「夕立」は反転してまた突っ込んでいく。「春雨」はここで分離してしまい「夕立」は単艦で敵に肉迫した。「アトランタ」に魚雷を二本命中させる。日本の駆逐艦は魚雷を撃つと、つぎの魚雷を装填するため戦場を離脱するが、吉川はそれでは戦機が去ると判断した。右も敵、左も敵の中で「砲術長どんどん撃て」と駆逐艦の大砲だから豆鉄砲だが、ガンガン撃たせる。近くから射撃するのだから当る。敵を大混乱させてから「夕立」は煙幕を展開して味方のほうに向かうのである。味方は敵方から出

てきたから、突進してきた敵駆逐艦と錯覚して「夕立」を撃つた。「夕立」は味方識別燈を点けていたが気づかれず、ついに味方砲弾が命中して航行不能になつてしまった。

「比叡」は舵が曲がつてきかなくなり夜になつて自沈した。「比叡」は太平洋戦争で戦場で沈んだ最初の日本戦艦になつた。空母四隻がミッドウエーでやられたときよりも、この古ぼけた戦艦が沈没したほうがショックが大きかったといわれている。巡洋艦とやりあって傷つき再起不能となつたのがショックなんぞで戦艦が巡洋艦に負けるはずないと思つていたからだ。それと「比叡」はかつての日の大観艦式のお召し艦であつた。それが沈んでしまった。

輸送船団のガダルカナル突入は一日延期され、十三日夜に今度は重巡「鈴谷」「摩耶」が軽巡「天龍」駆逐艦四隻とともにガダルカナル飛行場を砲撃し

た。しかし重巡二隻の砲撃では米基地の機能を麻痺させるまでにはいかない。その後十四日朝「鳥海」「衣笠」軽巡「五十鈴」と合同したが、「エンタープライズ」飛行機隊の攻撃を受けて「衣笠」が沈没した。「エンタープライズ」は修理未了のまま出撃してきたのである。積極果敢なハルゼーにやられた。十四日夜の船団突入に呼応してなおも連合艦隊はガダルカナル飛行場砲撃を続行しようとした。近藤

信竹中将の指揮する戦艦「霧島」重巡「愛宕」軽巡「長良」「川内」駆逐艦九隻がサボ島に向つて進入した。米軍は戦艦「ワシントン」「サウスダコタ」及び駆逐艦四隻だつた。戦闘は二時間におよび米駆逐艦は二隻が沈み、残つた二隻も大破した。「霧島」も戦闘に加わり「ワシントン」「サウスダコタ」を相手に奮戦した。しかし相手は新造四十センチ砲の戦艦、「霧島」はさうとう古い三十六センチ砲の巡洋

戦艦、勝ち目はなかつた。「サウスダコタ」は手傷を負つて本土へ修理に向かつたが、「霧島」は沈没した。

ここ一番の大事なところだったので「大和」「武蔵」を出撃させたかつた。敵の戦艦が出てくると思わなかつたので温存したのである。全力をつくす気構えがない。ハルゼーと違つて腰がひけていた。十一隻の輸送船団は十四日の朝から八次にわたる空襲を受けて六隻が沈没し、一隻は引きかえした。四隻は海岸に乗り上げ揚陸作業をはじめたが攻撃を受けて全船が燃え上がつてしまった。兵員二千人、弾薬三百六十箱、米千五百俵のみ、千五百俵といえはかなりありそうだが三万人で分ければ数日分しかない。

十一月三十日にルンガ沖の夜戦がおこり、日本側の大勝利となつた。司令官は田中頼三少将で駆逐艦八隻（親潮、黒潮、陽炎、江風、涼風、高波、巻波、

長波）がドラム缶の輸送でサボ島へ突入した。敵は巡洋船五隻、駆逐艦六隻だつた。重巡「ミネアポリス」「ニューオーリンズ」「ペンサコーラ」「ノーザンプトン」軽巡「ホノルル」と駆逐艦六隻。まず前に突出していた「高波」が照明弾に照らされて、集中射撃をくらつた。田中は揚陸作戦を中止させて「全軍突撃」を号令した。肉迫攻撃で各艦バラバラで突込んだ。結果、重巡「ノーザンプトン」を撃沈、残りの重巡三隻を大破させた。わが方の損害は「高波」の沈没だけである。この海戦で指揮をとつた田中司令官について評価が大きく分れた。アメリカの戦史家モリソンは「田中は一つの過失をも犯さなかつた。」ベタ褒めで「田中ザ、テナシアス」すなわち「不屈の田中」と讃えている。

田中自身は「私はなにもやっていません、ドラム缶を捨て全軍突撃せよといっただけです」といつている。ところが日本側

の田中についての評判は芳しくない。あの人は任務を与えられると文句が多かった。ドラム缶輸送作戦に対して根本から反対で、意見具申している。ドラム缶がガダルカナルに届いてなんの足しになる、駆逐艦をすりつぶすだけだからやめた方がいいと。

田中がドラム缶輸送に否定的だったからこそ、躊躇なくドラム缶を海中投棄できたのである。これがモタモタしてたら、こちらが叩かれてしまう。ところが戦果をあげて帰投すると、「あの野郎たちは意気揚々と帰ってきたけれども、肝心の任務を果たしていないじゃないか」となった。それから旗艦「長波」が単縦陣の先頭に立っていなかった。これがけしからんというのである。指揮官先頭の本海軍の精神に反すると。当時、第二水雷戦隊参謀だった遠山(安江)さんは、真中にいれば前後がよく見えるから一番いい

位置だったといっていたが、頭の固い連中はそうはとらないのである。合理主義も形式主義には勝てなかった。「あの臆病者は勝てなかった。「あの臆病者め」と烙印を押されて田中頼三という名前は戦史上から消えてしまった。アメリカじゃものすごい闘将として認められている人が、日本では格下げとなり舞鶴警備隊司令官、舞鶴海兵団長となった。

この結果、ガダルカナルへは弾薬どころか食料も運べなくなってしまう。ガダルカナルにつき込んだ三万人のうち二万人が戦死し、一万人がかるうじてフラフラになりながら引上げたが、戦死者の七割は餓死である。ガダルカナルは「餓島」となってしまう。

昭和十八年に入るともう日本軍が勝つ要素は何もなくなりV I信管による対空砲火は完璧になり、日本の飛行機は行けども行けども落された。

スプルアンズが率いた大機動

部隊はハルゼーが司令官のときは第三艦隊、スプルアンズに交代すると第五艦隊と名前を変えた。正規空母「エンタープライズ」「サラトガ」新造空母の「エセックス」「ヨークタウン」「レキシントン」「バンカーヒル」軽空母五隻、護衛空母八隻、新式戦艦五隻、真珠湾から引き揚げたのも含めた旧式戦艦七隻その他多数が太平洋に出撃してきた。日本は十八年度中に完成した空母は水上機母艦改装の千代田、商船改造の神鷹と海鷹の三隻のみ、ものすごい差であった。

参考資料、堀元美著「連合艦隊の生涯」半藤一利、秦郁彦、横山恵一著「日本海軍戦場の教訓」

第三十一回 宮津市民卓球大会

平成二十五年十二月一日(日) 宮津市民体育館で行なわれ、由良から十二名の方が参加されました。

結果は次のとおりです。

(敬称略)

◎団体戦(自治会別)

A級 準優勝

(日比道栄・木村卓雄

・川崎清・藤井忠)

◎個人戦

一般男子の部

A級 三位 川崎 清

B級 優勝 木村 大祐

C級 優勝 中西 一義

三位 木村卓雄

一般女子の部

A級 優勝 日比 道栄

B級 三位 小林久美子

中学生女子の部

優勝 小林 美香

小学生男子の部

優勝 小林 優暉

『京の蘭方医』(第二章)

新宮涼庭伝(長崎遊学時代)

第一節(西遊行) 新宮涼輔

〈郷里出発〉

宇田川玄隨の『西説内科撰要』によつて蘭学への眼を開かれた青年涼庭は、長崎遊学の志をおこし、近藤一之進もまた、これをすすめた。しかし両親は容易に許さず、数カ月が過ぎた。町医でかかる待遇をえたのは、当時の田辺藩としては、異数のことであつたという。涼庭が父母に長崎行を懇請してやまなかつたので、両親もついに許した。さて、長崎遊学の許可をえた涼庭は、将来の希望に胸をふくらませ、旅装をととのえ、金五兩と韻礪一帖・道中記一帖の入った囊を首にかけ、文化七年八月六日、数十人の人々に送られて郷里を後にした。

〈福知山を経て京都へ〉

この日は猛暑炎熱、さながら炬炭の中を歩むようであつたという。夜に入つて福知山に着き、伯父有馬涼築の家に入った。時に涼築は、半身不随を患い、舌がもつれて十分に物を言うこともできなかつたが顔には、喜びの色があり、近親相集つて、話に花を咲かせた。涼庭は、ここに五日間宿泊し、涼築を診察したそうだ。十一日は、早朝福知山を出発した。暁の炊煙がたちのぼり、松風の音は、雨のごとく、涼気は、膚に快かつた。福知山城を去る一里ばかりのところ、土師川が流れていたが、大早のため水がわずかに踵を没するにすぎない。さらに一里ばかり行くと草ぼうぼうの広野があり、涼庭は、怪しんで土地の人

波屋市助方に宿をとつた。

〈京都滞在〉

十三日は、暑熱が甚しかった。

この日、内海空と禅僧が訪ねてきた。この二人は、涼庭と同郷で、かつてともに京洛の地に遊ぼうと約束したものであるから、終日詩を賦して歡を尽した。

この時の涼庭の詩は、
短褐論交鬢未霜 風煙佳処渡年光
京城山水秋還好 天下何辺不我郷
結句を評して、篠崎小竹は「故友相逢如故郷」とした方がよいとしている。詩作の上からは、その方が趣きがあるうが、「天下云々」としたところに、かえつて青年涼庭の氣負つた心情がみられる。

十二日は、小雨であつた。須知・園部をすぎて、さらに行くこと四里、雲雨の間に龜山城をのぞむ。足を早めて老坂を登り、地藏堂に休憩する。この峠から遠望すると、洛都十万の民家はるか眼下にある。この日ついに京都に入り、新町松原下る丹

十四日は旧知の中神琴溪を訪ねた。涼庭は、琴溪は医材があつて凡ならず。ともに語るべきものとし、次の詩を呈している。
養榮腐語世流涎 驅毒快言誰著鞭
腐語快言両灰燼 有他実地順天然
夕食後祇園社に参拝した。新築早々で旧観はなかつた。茶店で

夕食を喫し、深更に旅館に帰った。十五日には、吉益南涯を訪ね、巖溪高台先生の書をさし出した。南涯は、涼庭を入れて席をすすめ、数時間にわたって医事を談じた。その『傷寒論』を説くのを聞くと、ままた憶測に出るところもあるが、非常に心を用いていることが考えられ、瘟疫・傷寒の弁にいたっては、自分の説と吻合していると涼庭は述べている。南涯は、門下の俊秀としては、備前の赤石順治・紫岡宜全・長門の柏杏庵だけであると述べた。赤石順治はのち涼庭が訪ねた人物である。南涯の邸を辞して旅館に帰った涼庭は坂本・潤東両人の訪問をうけ、つれだつて付近を逍遙し、酒屋に入り、鶏肉で杯を傾けた。涼庭が、夜に入つて恐縮だといえ、主人は笑つて今夜は、中秋の名月にあたり、「自分は、商人だが一杯の酒をすすめるぐらいの用意はある」と答え、鴨川畔の酒楼に案内し、簾をまいて

月を賞しつつ、杯を傾けた。時すでに十時、雨ははれて月が出、東山が黒くくつきりと浮びあがり、清い光が下界を照らす。そこで涼庭は一詩を賦した。

① 梟水一川月 鴨東萬点楼
梟はカモ、加茂川の意。

清風吹微醉 三十六峰流
深更旅館に帰った。

十六日は、二十三の患者を診察した。午前中川修亭を河原町に訪問、医話に時をすごした。中川修亭は、博聞で、はじめより定論をおかなかつた。修亭の邸を辞して、京を發し伏見にいたり、ここより船に乗つて大阪へ下つた。涼庭は、心身ともにのびのびとして、思わず蘇東坡の赤壁のを賦を口ずさみ、古人の雅懐水の如きを嘆じつつ、一詩を賦した。

一川明日夜雲空 兩岸清光落短蓬
白是荇花青是水 十分詩料槽声中
船中で一睡するうちに浪速の京橋についた。時にまだ東の空は白んでいながかつた。

(注)中神琴溪↓古医方家。近江山田村の人。寛政三年四十九歳の時、京都に住んだ。

※吉益南涯↓吉益東洞の子で当時の京都の名医であつた。

※中川修亭↓吉益南涯の門人で、医史に精しかつた。

以上のごとく、涼庭は、前後五日間京都に滞在したのであるが、ここでは、蘭学者を全然訪問していない。当時の京都では、小石元俊すでに没し、海上随鷗はまだ在世中である。もし涼庭が大槻玄沢と会つて、医事を語つておれば、さらには、九州遊学前、宇田川門に入つておれば蘭学者を訪問してしかるべきである。涼庭の蘭医学に対する知識は、当時まだそれほど深くなかつたとみてよいであろう。

〈大阪滞在〉

十七日は、天神橋に止り、東の方、大阪城を望んで、その要地であることから、豊臣秀吉の英略をたたえ、一詩を賦し同日は天満の橋屋文四郎方に一泊し

た。主人は、一面識もなかつたが、かつてその兄の重患であるのを涼庭が治療したので、大いに歓待されたのである。十八日は橋本宗吉・野呂天然両人の門をたたいた。涼庭は、この二人から蘭方のことについて聞かされ、「始め聴て喜ぶべきが如く中ごろ驚くべきが如く、遂に恍然として自失す。是に於て西遊の志益々堅し」と述べている。これが涼庭が長崎遊学前に宇田川門に学ばなかつたという大きな証拠となるであろう。とにかく、喜び、驚き、自失した涼庭は、橋本宗吉よりできうるかぎり学ぼうとしたのか、旅費のために治療をしたか、約半ヶ月橋本の家にとどまつた。

(注)橋本宗吉↓(一七六三—一八三六)大阪の傘屋であり、その才を見込まれ、小石元俊と間重富(長涯)の共同出資で、芝蘭堂に入塾した。彼は、語学の天才で、半年間勉強する間に、オランダ語数万を覚えたといわれる。
(注)野呂天然↓天然は、江戸の人で、

刻苦十年余、漢蘭二法を折衷して新医学をおこしたが、流行しないので著述をもって後世に伝えようと京都に入り、学塾麟網草堂をおこした。

〈岡山に向う〉

九月六日、新しく交わった人々と別杯を傾けて、涼庭は、大阪を発ち山陽路の旅を続けた。七日早朝三影を發し三里ばかりにして脇道に入り、湊川の楠公の墓に詣でてその精忠をしのんだ。ついで兵庫に入る。さらに二里ばかりにして、須磨一の谷を過ぎ、源平の谷戦をしのび、平敦盛の五輪塔や平知盛の碑をみ、詩を賦す。

八日早朝出發、暁風は、飄々として、秋の露が降りている。

涼庭は、思わず北海巖殺の気の故郷と、南海に面した摂津播磨の地とを比較する。行くこと五里加古川の駅に出る。姫路城を望んでは、再び豊臣秀吉の雄大な氣象を偲ぶ。二十二日、早朝出發して、岡山に入る。

〈広島に向う〉

二十三日は、矢掛・高屋の兩駅を過ぎて、日没神辺駅にいたり、小早川文吾を訪ね、赤石大蔵の書をわたす。

二十五日は、尾道に入り、医生某の宅に一泊し、二十六日は、山崎闇齋を信奉する朱子学者某を訪い、午後灰屋某を訪い、二人の娘から蘭竹を描いて贈られる。二十七日は、小早川隆景築くところの三原城を見、香積寺に僧道高を問う。かつて由良に来て涼庭の診断を受けた人である。翌五日は頼春風（山陽の叔父）を訪う。竹原村を發し七里村長宅に一泊、七日広島に入り、出雲屋権平の旅館に宿泊した。

〈広島滞在〉

翌八日は、権平の仲介で、山陽の名医惠美三白に会う。涼庭は惠美三白の家に文化八年八月まで約十ヶ月滞在した。

〈北九州行〉

八日箱崎にいたり、箱崎八幡に詣で、博多に一泊した。九日午後は、亀井南冥の弟で、詩僧

の幻庵を禅悦堂に問う。十日は、福岡にいたり、亀井南冥を訪う。当日は、南冥気分すぐれず、病であろうと思われた。涼庭が海魚十尾を進呈すると非常に喜び「驅豎齋」の三字と医箴一語を書いてくれた。（現在新宮家に有り）。十一日は、海風激しく終日浅田のために『傷寒論』を講じた。十五日堺原を發し佐賀城に入る。十六日には長崎いたり。

参考文献 山本四郎著「新宮涼庭傳」ミネルヴァ書房



亀井南冥筆「驅豎齋」（涼庭の号）の扁額（由良新宮豊氏所蔵）



頼山陽が病で臥している時、主治医は、小右元瑞であったが、しばしば涼庭を呼んで治療を受けていたようです。
 文政六年（一八三三）シーボルトが蘭館医として来日した。

京都南禅寺に涼庭の墓がある。墓石は自然石で立派で、碑の裏面に「先生諱碩字涼庭 丹後由良人歿干京師 享年六十八葬瑞竜山之天授庵下実嘉永甲寅正月九日也孝男義慎泣血拜立」の刻文があり、墓側右方に『贈正五位』と刻んだ石柱がある。（1854年、1月9日命日）今年没後160年になります。



「新宮春枝（室）墓」



「新宮涼庭 墓」

平成二十五年度 第十三回 中学生の主張大会 発表作文

宮津市青少年問題協議会
宮津市教育委員会

「どういたしまして」の一言が〈優秀賞〉

栗田中学校 二年 前 畑 あづさ

を。「ありがとう」と言われた私が、「どういたしまして」と言えていたことを。

祖父が、私のことを「純子」と呼び始めたのは、私が幼稚園に入った頃のことだった。その時分に祖父は脳梗塞になったからだ。その時は、なぜ私のことを「純子」と呼んでいたのかはわからなかった。しかし、それからだんだんと容態が悪くなっていき、祖母は、毎日祖父の介護をしていた。忙しくて大変だったのに、祖父に「ありがとう」と言われると、祖母はいつも笑顔だった。

私も小学校の低学年の頃は介護の手伝いをしていた。その時は、祖父と触れ合うことがなぜか楽しく思えて、胸が躍る気分だったのを覚えている。「どういたしまして」の一言も、その時の私は言えていた。

しかし、日が経つにつれ、介護の手伝いをしなくなっていった。手伝いにも嫌気がさしてい

あなたは、嫌いな人、もしくは苦手な人から「ありがとう」と言われたらどうするだろうか。「どういたしまして」と素直に言う。それとも、無視をするか。大抵の人は前者を選ぶだろう。しかし、昔の私は後者を選ぶことしかできなかった。気持ちの込もった、あの一生懸命に言った祖父の言葉にさえも。「純子、ありがとう。」

それが、私に対する祖父の最後の言葉だった。今もまだ耳の奥に残っている。あの途切れ途切れで、ゆっくりとした「ありがとう。」が。

私の祖父は、脳梗塞だった。

特に足が悪く、いつも車椅子に

座って生活をしていた。私は、祖父が元気に歩く姿を一度も見ることがなかった。祖父に「元気な頃はあなたの世話もしてくれたんやで。」と言われても、全く覚えがなく、写真を見せられても、いろいろな話を聞いても、何一つ思い出すことができなかった。その時のことを、走馬灯のように思い返してみても無駄だった。それは、私が幼稚園にも行ってはいないくらいに幼い時のことだったから。

でも、私は覚えていた。昔は「純子」ではなく、ちゃんと私の名前で呼んでくれていたこと

で、「ありがとう」と言われても無視をしていた。必ずその言葉の最後に「純子」と呼ばれるからだ。「あづさ」という私の名前を、ちゃんと呼んでくれなくなったことが、私は嫌だった。

「純子」というのは、祖父の姪に当たる人の名前らしい、ということを知ったのは、私が中学生に入ってからのことだった。祖父はその純子を可愛がっていたらしい。しかし、大きくなるにつれ、純子は家に来なくなっていた。もしかしたら、祖父は寂しかったのかもしれない。だから、代わりに私に呼びかけていたのだろう。けれど、小さかった私には、そんなことはわからず、そのまま祖父のことを無視し続けていた。そして、そんなひどいことをして謝らな

いまま、祖父は帰らぬ人となった。その時の私は、全然泣かなかったし、悲しくもなかった。

むしろ「もう純子と呼ばれなくてよかった。」と心の隅で思っ

ていた。

あの時祖父は、私に会うと必ず「純子」と呼んできた。ただ、それだけではなく「ありがとう」の言葉まで私にくれていた。一生懸命に気持ちを込めて言ってくれた「ありがとう」。ガンにむしばまれた体にとって、それはすごく大変なことだったと思う。それなのに、私はその言葉を、気持ちをも、無視していた。「どういたしまして」の一言が言えなかつた悔しさが、今更になつて込み上げてくる。

「どういたしまして」

簡単に言える一言のようで、実は素直に伝えるのはなかなか難しい。けれど、その一言は「ありがとう」と言ってくれたことへもう一度感謝をし直す言葉だと私は思う。

そのことを考えた上で、今の私は言うことができる。

「おじいちゃん、どういたしまして」

文化財の整備を実施しました

【コミュニティ助成制度による芸屋台の修理・修繕】

由良宮本自治会長 泉 貞 夫

現在、由良宮本自治会では合併前の旧東崎村が所有していた「宮本山」と旧松下村が所有していた「八幡山」の二台の芸屋台を保管しております。

どちらも同じ頃の建造と思われませんが、八幡山は明治二十八年九月の新調で、台車の内側には当時の世話方、区長、大工等の名前が墨で記されており、一世紀を超える歴史を刻んだ台車です。

秋の例祭時には巡行やお披露目を由良神社境内で行っておりますのでご存知のことと思います。

さて、この郷土が誇る貴重な文化財も経年から老朽化が進み、屋根部に於いては腐食や緩みが散見され、宮本山に至っては車輪が朽ちたことで長年復元

が出来ずに分解された状態で倉庫に眠っていました。引き継いだ我々世代の責務として二台の芸屋台を共に原形に近い状態に蘇らせ、後世へ残していこうという機運の盛上がりがあったことから、安からぬ修理・修繕費用の捻出に頭を悩ませてきたところです。

この度、宝くじ社会貢献広報事業の一環で、地域文化への支援制度である「コミュニティ助成制度」の該当団体として助成金交付を受けたことで、大方半世紀ぶりに新調コマ（車輪）を装着した宮本山の復元が成り、ここに整備された八幡山と併せて念願の二台揃い踏みが実現しました。

今後は、この整備された明治の遺産を後世へ残し伝えていく

ことは勿論のことですが、地域の共通の拠りどころとして機会に披露したいと思っております。

追々…整備実現に向け尽力頂きました方々に、紙面をお借りし御礼申し上げます。



史料(北前船)提供のお願い

宮津市では今夏7月に北前船に関する全国大会が企画されています。由良の歴史を次世代へ伝える為に、由良の戸 千軒長者の館(足湯)では、内部を改良し展示物を入れ替え北前船の資料室としてリニューアルします。

江戸末期から明治初期、北前船に乗り込み由良の船頭たちは、日本国中を航海し、海運を通して国内の流通に大きな貢献をしてきました。

ご家庭にあります史料を一定期間お預かりし、千軒長者の館で展示、訪問される方々に見ていただきます。

明治から昭和にかけて北前船関係の書類、民具などの提供をお願い致します。責任をもってご返還をいたします。

由良の歴史をさぐる会

ちくと知っ得

由良神社拝殿の右側そてつの蔭に「猷木軍艦由良」と刻まれた小さな石柱があります。

これは大正から昭和初期、国を護る為行動した巡洋艦「由良」の碑です。

戦前、艦と乗組員の安全祈願の為、艦長や乗員が再々由良神社の参拝に訪れ、また地元住民との交流が行われました。

さらに由良神社宮司や氏子総代が佐世保まで招かれ安全祈願の神事が行われた記録が残されています。

(飯澤登志朗)



編集後記

2014 (H26) 年3月

昨秋の「カメムシ」の大発生で、今冬は大積雪の危惧の念をもっていました。二月六日現在、平年に比べ小雪で終わるような気配です。晴れた日には小さな春を見つけます。由良小学校の閉校を間もなく一年がたち「さびしさ」にも少し慣れてきました。

森羅万象、わたくしたちを取り巻く環境も少しずつ変化しています。今年も地震台風など大災害が起こらない事を願う毎日です。梅の香りが終わると春の到来になります。「省エネに努力」と呼ばれていぶんたちます。拙宅も、常用を中心にLEDに交換し、電気使用量も少しずつ減ってきました。温暖化の影響で近年の積雪は減少傾向にあります。豪雪地帯に指定されている丹後地方、何事にも「備える心」を忘れず、普段の行動をしたいものです。

